

R7 町内版
第1号

発行: 富山県立入善高等学校
放送広報部
電話 (0765) 72-1145
ホームページ

<https://www.nyuzen-h.tvm.ed.jp/>

第76回 体育大会

光輝瞬間、全てを
懸けて限界突破

今年の体育大会は早くから雨の予報が出されていて、延期や中止が心配され

た。しかし、当日は私たち生徒の思いが届いたかのような快晴のもとでの開催となった。



例年注目を集める各団のマスコット。今年は青団が「ワンピー」、赤団が「鬼滅の刃」、白団が「東京喰種(グール)」と、いずれも有名作品の人気キャラクターが描かれ、熱戦に花を添えた。

競技が始まると同時に団



▲マスコット賞に輝いた赤団の作品

席からは熱い声援が響き渡った。3年生の学年種目である「全員リレー」では、

目指して応援グッズを工夫したり、校歌や応援歌の練習を行ったりと懸命に準備が進められた。当日は、例年にも増して大きな応援の声がグラウンド一杯に響き渡り、活気に溢れる大会となった。来年も熱い声援が飛び交う白熱した体育大会を期待したい。

(放送広報部 道下琴名)

【第76回体育大会結果】

競技の部 総合優勝 青団リレーの部

総合リレー 優勝

白団 (Aチーム)

女子400mリレー 優勝

青団 (Aチーム)

男子800mリレー 優勝

青団 (Aチーム)

応援賞 白団

マスコット賞 赤団

個人の部 新記録賞

白団2年 柳原大輝君

男子100m走 記録11秒6

▼青団団長の大野翔君にインタビューしました。

団長が不甲斐ないせいで、うまくいかない部分もありましたが総合優勝を勝ち取ることができました。これは、団のリーダーや団員のみんなの協力和努力があっ



たから困難を乗り越え、え、掴み取るこができました。青団のみんなは勝ちたいという熱量を持って一丸となって取り組んでくれました。その熱量や団結力が最後の勝利につながったと思います。この経験を通じて、仲間と協力する大切さや諦めずに挑戦し続けることの重要性を改めて実感しました。来年は今年以上に素晴らしい体育大会になることを期待しています。先生方や青団のみんなには感謝しかありません。

▼白団応援団長の山田凜君にインタビューしました。

白団の目標は、応援賞をすることとみんなで楽しむことでした。私の自慢は、白団の団役員は全員仲が良く、白団全体の団結力がとても強いことです。応援練習の時から、「応援賞は絶対獲りたい」と応援団全員で話していました。そして、一丸となつて声をたくさん出し



新記録賞の柳原大輝君

▼新記録賞の柳原大輝君にインタビューしました。

した。全員はじめてのことばかりで大変なことも多かったけれど、白団の目標や仲間と協力できたことががんばることができました。当日は朝から緊張していましたが、競技中でもたくさん声を出して楽しんで応援できました。団役員、団員、先生方にたくさん協力していただき感謝でいっぱいです。思い出に残る良い経験ができて良かったです。団員全員最高に大好きです。

体育祭の100m走を終えて、入善高校の記録を作れたこと、そして走る11秒間を頑張れたこと、本当にいい経験ができました。当日まで応援していただいたり、期待していただいたり、それらを結果で返せて一緒に喜べて良かったと思います。思い出の写真に賞状がある。そんなあの1日が幸せでした。

くれた。その他にも、腐敗抑制の実験や紙ヒコキの実験など、楽しそうな実験が



7月16日(水)に3年生自然科学コース全員が入善コスモホールにて、昨年から取り組んできた課題について発表した。例年、数学・物理・化学・生物の4分野からの発表だが、今年度は情報分野の発表を加えた。情報科の2班は、対話型ロボット「ペッパーくん」を使った発表で、場内を盛り上げて

【課題研究発表会】



多く見られた。生徒だけでなく、先生からの質問も多く、発表者は仲間と話し合っ

て一生懸命回答していた。

【センター実習】

7月9日(水)、2年生の自然科学コースの生徒全員が総合教育センターで、物・化・生・地に分かれて実験に取り組んだ。物理班は空き缶を用いて白色光を分解し虹色の光にする実験、化学班はハムや緑茶に含まれる



を知り、日々の学習の主体性を育む良い機会となった。

【交流行事(農業科)】

5月1日(木)、入善小学校2年生と農業2年生がミニトマト苗を植える交流会を行った。定植後、体育館で一緒にゲームをして関係を

深めていた。秋には花苗を植える交流会が予定されている。

7月7日(月) および15日(火)には、新川むつみ園と農業科3年生が交流会を行った。新川むつみ園玄関前の花壇に協力してコキアの苗を定植するなど、関係を深めていた。年4回の交流会が予定されている。

【校内農業鑑定競技会】

6月26日(木) 本校農業



ミニトマトの苗植え(入善小にて)

実験室にて、校内農業鑑定競技会が行われた。農業科全学年が参加し、生徒は制限時間20秒の中で集中して各問題に取り組んでいた。代表1名が10月に行われる全国大会に出場する予定である。

【校内意見発表会】

6月6日(金)、本校体育館にて校内意見発表会が行われた。緊張しつつも堂々とした態度で発表した。本会の優秀者3名は、7月25日(金)に氷見高等学校で行われる富山県大会に出場する。

【優良農家等見学研修会】

7月7日(月)に優良農家等見学研修会が行われ、農業科1年生が参加した。入善町内の優良農家や食品工場を訪れて自営農家の経営や営農状況を見学し、専門知識を深めた。



インタビューの様子

【見方・聴き方を鍛える】

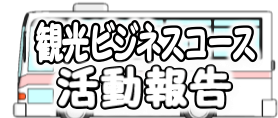
ただ聞いて・書くだけでなく、

【聞き取りとレポート】

フィールドワークの基本は、インタビューとレポートである。最初は恐る恐るであったインタビューも回数を経るにつれて自然と行えるようになっていく。レポートはタブレットを利用して共同で作成している。

【フィールドワークの経験をもとにテーマを見つける】

またリサーチのために出かけたフィールドワークの結果、テーマを大胆に変更することもできる。このようにフィールドへと出かけることは自分たちの新しい可能性との出会いでもあるのだ。



はない。何を聞くか、何をみるか、自分が当たり前と思っている見方・聞き方を疑い、拡張することも大切である。生徒達は、写真や録音した音声などで活動を振り返り、自分たちが気づかなかった世界の見方を発見していく。

【フィールドで問いを見つけて、問いを変える】

2年の後半から始まるリサーチのテーマは自分たちで決める。それまでのフィールドワークの経験をもとにテーマを見つける。またリサーチのために出かけたフィールドワークの結果、テーマを大胆に変更することもできる。このようにフィールドへと出かけることは自分たちの新しい可能性との出会いでもあるのだ。